



川崎重工業株式会社
取締役社長

大橋忠晴

世界の持続可能な発展に貢献する “Global Kawasaki”

「カワサキグループ・ミッションステートメント」 の実践に向けて

世界は今、環境・社会・経済のさまざまな面において大きな変化の波に直面しています。

特に環境については、「気候変動に関する政府間パネル(IPCC)」から、2007年に相次いで公表された報告書により、地球温暖化が深刻な問題として全世界で認識されるようになりました。そして、2008年からは先進国に対して二酸化炭素など温室効果ガスの削減を義務付けた京都議定書の第一約束期間もスタートしています。

川崎重工グループは、昨年5月、カワサキグループ・ミッションステートメントを制定し、「世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する“Global Kawasaki”」をグループミッションと決めました。陸・海・空の輸送用機器から各種産業プラント、発電設

備、産業機械にわたる幅広い事業分野を有し、世界の社会基盤整備を支えてきた当社グループには、地球環境保全について果たさなければならないことが2つあると考えています。

ひとつは、技術と製品を通じて人類共通の課題に正面から取り組み、世界の持続可能な発展に貢献していくこと、もうひとつは、製品の製造過程をはじめとする企業活動全般の環境対応を進めることです。

ミッションステートメントは、当社グループが使命と考える両方の点をカバーしたものです。ステートメント制定以来、研修カリキュラムやパンフレット、携帯用カードの配布、座談会の実施など、さまざまな機会を通じてステートメントの浸透を図ってきましたが、ミッションステートメントが、企業風土の中に定着し、全従業員の行動の羅針盤となるよう、今後とも活動を続けていきたいと考えています。

地球環境との調和を図るために

環境にやさしい経営を目指し、川崎重工グループではグループ内の環境保全活動を強化しています。

特に、環境保全活動とCO₂削減のための設備投資については、今年度からは別枠で予算を確保するとともに、その実施状況のフォローアップを徹底して行うことにしました。

また、温室効果ガスの排出量削減に対する取り組みでは、川崎重工グループは京都議定書に対応した自主的な取り組みとして、2010年度の温室効果ガス排出量を1990年度比で6%削減するという目標を定めています。これまでさまざまな対策を講じてきましたが、1990年度と比較して事業規模が拡大したこともあり、この目標達成は容易なことではない状況です。しかし、当社グループでは、この目標を堅持し、目標達成に向けて新たな施策の検討を進めています。

本業である技術や製品を通じた環境負荷の低減については、現在推進中の中期経営計画「Global K」の中で実現を目指す「陸・海・空の輸送システムとエネルギー・環境分野を中心とするグローバル・リーディングカンパニー」という企業ビジョンに即して、これまでに培った省エネ・省資源、その他環境関連技術を応用することによって、地球環境保全に資する製品の開発に注力しています。

その中で、先進的な事例をいくつかご紹介します。

まず初めは、新しい都市交通機関として注目されている電池駆動の低床式路面電車「SWIMO(スイモ)」※1です。当社が開発した大型ニッケル水素電池「ギガセル®」の搭載により架線なしで10km以上の走行が可能になりました。子どもやお年寄りの方にも昇降しやすい超低床のバリアフリーを実現し、人と環境にやさしい次世代の乗り物として期待されています。

続いて、天然ガスを燃料とする「グリーンガスエンジン」※2です。世界最高の発電効率48.5%を達成し、総合効率85.3%に達するこの画期的なガスエンジンは、CO₂とNO_xの排出量を大幅に低減する高い環境性能を備えています。

さらに、再生可能エネルギー利用についても技術開発を進めており、その一例として「木質バイオマスガス化発電設備」※3を製品化しています。木くずを主な燃料として使用するの、資源の有効活用はもちろん、カー

ボンニュートラルの考え方により、大気中のCO₂を増加させない発電設備とされています。

今後も、経営資源を効果的に投入し、人と地球の未来に貢献する新しい製品・技術の開発に積極的に取り組んでいきます。

企業の社会的責任を常に認識して

「事業展開のすべての局面において企業の社会的責任を認識し、地球・社会・地域・人々と共生する」川崎重工グループは、ミッションステートメントの「グループ経営原則」の中で、こう規定しました。21世紀を生きる企業として、環境問題にとどまらず、株主、顧客、従業員、地域社会などあらゆるステークホルダーとの関係を重視し、広く企業の社会的責任を意識した経営を行うことを目指しています。

そのためには、従業員一人ひとりがミッションステートメントを良く理解して、日頃からその精神に即した行動を心がけることが第一ですが、それと同時に、ガバナンス、コンプライアンス、内部統制のシステムの整備・強化を通じて、経営の透明性を高め、その品質をより確かなものにしていくことが必要です。当社グループでは、中期経営計画「Global K」の基本目標の一つとして「CSR推進体制の強化による企業品質の向上」に取り組んでいます。昨年度は、財務報告の適正性を追及するため、グループ全体を統括する専門組織を定めるとともに、内部統制関連社則の整備を行いました。

この他、事業所近隣の清掃や校外学習への協力など地道な活動に加え、「ヴィッセル神戸」※4への支援や企業ミュージアム「カワサキワールド」※5を通じた地域社会への貢献、災害時の義援金などの寄付も含め、社会の人々から信頼される企業となることを目指していきます。

今後とも、社内体制の充実と、従業員一人ひとりの自覚を高める社内教育の実施を通じて、企業品質をより確かなものとすべく努力していく所存ですので、引き続き皆様のご支援をお願い致します。

※1「SWIMO(スイモ)」: 詳細P13~15

※2「グリーンガスエンジン」: 詳細P10

※3「木質バイオマスガス化発電設備」: 詳細P8

※4「ヴィッセル神戸」: 詳細P28

※5「カワサキワールド」: 詳細P28